草庵集

全

春部

立春　早春　海辺子春
子春霞　早春氷　初春
初春鶯　曙霞　遠山霞
夕霞　山霞　海辺霞
孤子霞　海霞　河辺霞
浦霞　湖霞
鶯　雪中鶯　暁鶯
曙鶯　朝鶯　夕鶯
谷鶯　鶯出谷　故ゝ鶯
鶯乃友　子日祝

嚴東　宮中嚴葉　弥嚴葉
澤嚴葉　春雪　殘雪
山殘雪　殘雪　殘雪
二月餘寒　餘寒　餘寒
梅　梅風　梅風
梅薫風　梅薫　梅薫
梅薫　梅薫地　梅薫地
梅薫地　宮中梅　梅薫地
夜梅　月前梅　梅殘
里梅　庭梅　雨庭梅
古宅梅　御柳　御風
雨中柳　春月　春月
春曉月　春夕月　春月遊
山春月　河上春月　水鄉春月

故鄉春月　春雨　春夕雨
夕春雨　春雨　河春雨
故鄉春雨　旅春雨　歸雁
嚴中歸雁　霞歸雁　夕歸雁
夜歸雁　歸雁　海邊歸雁
湖歸雁　深歸雁　三月三日
由水嚴　水鄉歸雁　雲雁
原雲雁　雁　梨花
花　雁　初花
雨中待花　待花　殘花
尋花　雨中待花　說花
花未遍　遠尋花　山花盛
花盛

見花　見花日暮　花下送日
花為客　花惹愁　花挿頭
折花　嘆花　胡花
夕花　夜花　夜思花
月照花　月前花　雨中花
雨後花　窗中花　旅宿花
躑躅花　山花　山路花
青山花　山家花　困居花
谷花　古渓花　杜花
閑花　里花　京花
沈丑花　河丑花　孤丑花
胡丑花　海丑花　浦花

渓花　禁中花　故郷花
古寺花　名所花　庭前花
松蘭花　花交松　花為雪
花忘恋　寺花遠　寺花遠泊
花友　花徒　花下待
花間鶯　風前花　惜花
花後風多　花陰風　花為花
水郷花　河為花　沈為花
閑為花　釣船花　夕為花
情為花　遅桜　郷愁
山躑躅　歎冬　河欽冬
藤　水丑藤　沈藤

松之藤　菅春藤
春天象　菅春地儀
菅春　菅春雨
菅春月　山家菅春
三月尽　浦菅春

夏部

夏衣　朔日夏衣　都鄙夏衣
山餘花　尋郭花　殘花
夜卯花　杜庭新樹　卯花
菱　杜卯花　里卯花
待郭ム　人傳郭ム　郭ム亦遍

初郭ム　遠郭ム　曉郭ム
夕郭ム　夜郭ム　深夜郭ム
山家郭ム　杜郭ム　湖辺郭ム
泊郭ム　郭ム遍　早苗
採早苗　山田早苗　菖蒲
軒菖蒲　水辺菖蒲　夜蟲
夏水　五月雨　嘸ム月雨
五月雨久　五月雨晴　拙ム月雨
河五月雨　浦ム月雨　郭ム月雨
淺五月雨　滝五月雨
五月雨　河辺菖蒲
夕菖蒲辺菖蒲
水辺菖蒲
江菖蒲

澤雲　野雲　叫雨雲
蒸鳴雲　晚夏雲　憲崩雲
夏月　山夏月　浦夏月
雨後夏月　夏雨　夏湖
夏竹　野夏竹　風前夏竹
庭夏竹　雞冠　蘿罹夏
鶏冠　熙射　曉更鳴射
水鶏　蓮　白鷺
夕立風　夕蟬　山蟬
夕蟬　水丑納涼　納涼
夕納涼　泉　泉
泉涼暑　志賀辛崎夏　猿野夏

河夏祓　六月祓

秋部

早秋　初秋風　初秋　初秋雲　初秋月　初秋夕　初秋雨　初秋虫　初秋雁　初秋露　七夕　七夕雲　七夕待　七夕月　七夕河　七夕雲　七夕鳥　七夕後朝　七夕橋　七夕鳥　国月七夕　萩　夜萩　尾花　萩露　庭萩　萩風　萩露　野外萩　月前萩　草萩

竹花　胡竹花　竹花蕊
鹿竹花　因原竹花　竹花蕊
霧中竹花　月前草花　竹鶏
遊猟　小鷹狩　露
暁蕊　野蕊　野径蕊
野外蕊　野外秋蕊　秋夕
秋月　雨丘秋月　野秋月
田家秋月　秋雨　秋夜雨
秋寄書雨客　秋天象　秋動地
秋捷報　秋田　秋
鹿　月前鹿　月夕閑鹿
霧中鹿　胡鹿　夕鹿

夜鹿　遠鹿　山鹿
蒼山鹿　野鹿　田家鹿
田家夕鹿　因原鹿　鹿夕何方
鹿夜竹花　雁　胡初雁
山家初雁　月前初雁　明月聞雁
夕雁　田上雁　夕
暁雁　夕雁　夜雁
月前雁　蘆夕雁　因原雁
旅鞍因雁　雁夕遠　雁
胡霧　雁夕雁　河霧
行立霧　蒼山霧　浦霧
後霧　湖上秋霧　弱迫
田上霧

月
九月十三夜　八月十五夜　十六夜　十七夜
雲間月　海山月　見月　山家見月
月前夢　夢間月　夢上月
月妓鳴　月前時雨　月下鳴
曉天月　月妓鳴　曉月
夕月　紫月默雲　海上曉月
　　山月　月出山
芋山月　海山月　嶺月
谷月　昌月　野外月
野外月　野外月　野外夜月
閑月　拷下月　沢月
江月　江清月　迫人　河月

海月　海上月　海辺月
湖月　湖辺月　浦月
物月　浪月
放郷月　里月
山居月　田家月　山家月
芦間月　竹間月　古寺月
月前鶴　月前鶴　月前雞
月前網　月前義　月前舞
對月思昔　惜月　孤月秋久
伯母弁山秋　遠山秋　文城野
搗衣　月前搗衣　夕搗衣
衣搗衣　海辺搗衣　遠村搗衣

山家晴衣　里晴衣　晴衣遥
鵙　鶉　鶉
蔦　月前蔦　蔦籬月
蔦蔦　紅葉　白紅葉
月前紅葉　月前拔　山紅葉
紅葉遍　名所紅葉　菅秋
菅秋月　菅秋　九月尽
九月尽秋　閑九月尽

冬部

初冬　初冬　冬
風前時雨　暁時雨　時雨
夕時雨　夜時雨　屋上時雨

海辺時雨　海柴　海柴
海柴夕風　杜海柴　海海柴
河海柴　庭海柴　磯辺
湖柴　松柴　定州
夕定州　杜定州　跡定州
跡定州　雨庭定州　定芦
氷　朝氷　池氷
江氷　鵙氷　河氷
湖氷　冬月　保山冬月
河冬月　河上冬尺　沈冬月
定秋月　推柴　冬
秋冬　海辺冬　浦冬

殘夕雪　深山雪　水雪
曉山雪　夜山雪　雪中山雪
山雪　澤雪　他山雪
一雪遠望水　乃　網代
夜網代　簾殿　古屋殿
簾雪　竹殿　殿似山
庭初雪　初雪　山初雪
曉雪　濱雪　擬雪
夕雪　朝雪　海山雪
遠山雪　山雪　瀨雪
山月雪　山松雪　路雪
林雪

路外雪　圍雪　圍炉雪
圍路曉雪　行路雪　樹上湖雪
河辺雪　河辺雪　湖雪
湖辺雪　浦雪　庭雪
松雪　松雪　雪狩
夕雪狩　炭竈　古家竈
炉火　曉炉火　神樂
佛石　宮中子掛　子掛煮風
家雪　家雪　山嵐家雪
歎嘆雪　冬夜　冬動物
冬述懷

草菴和歌集類題目録三

恋部

初恋

恋久、　思不言、　思、
恋絶、　恋恨、　恋不逢、
恋待、　恋不逢、
恋難、　恋絶、　恋、
関変、　見、　絶、
初恋、　初久、　初恋、
契、　待、　初久、
聖後恋、　聖絶、　聖久、
別、　絶、　三度不見書
不逢、　来不逢、　不逢、
待、

夕待、　每夕待、　朝待、
待夜、　夜待、　晚待、
逢、　初逢、　初逢、
朝逢、　朝逢、　初逢、
暫別、　暫別、　別後會難期、
後期無、　後期如、　逢不逢、
、不遇、　、不會、　在何、
歎無如、　歎、　絶歎、
絶後頭、　歎、　彼此、
味、　愛、　約遠、
莫逢、　絲宿逢、　別、
凡夢僥、　彼方人、　相、

久、　遠、　隔遠路、
近、　隔、　彼忘無、
乃思、　思、　互恨、
恨、　恐恨、　絲久、
恨絲、　絲、　月前、
絲久逢、　絲初、　月前別、
月前待、　月前絲、　秋夕待、
春、　夏、　曉、
霧中、　冬、　限一秋、
夜、　不通夜、　巷、
名何、　木橋里、　月初、
西亂、　寄月、

月亟、　月別、　月靑、
自恨、　雲、　風、
蜩、　鳶、　雨、
霜、　雪、　山、
松、　野、　水、
閑、　沈、　沈、
船、　河、　海、
淺、　湖、　浦、
垣、　草、　恐草、
悪草、　菅、　藻、
木、　花、　花恐、
鳥、　水鳥、　鄭、

浪、　浪、　山、
源、　拙、　道、
衣、　紋、　書、
弓、　徐、　繩、
紙、　悪天象、　悪雜物、

阜菴和尚集類題目錄 三

雜部

天象　天色安晴於　流水浸雲根
曉　曉寢覺　海上曉雲
山　山頂曉　洑水
書所所著　旅　夕陽未沒
夕旅　山夕旅　陶淵旅
雨旅　河邊旅　湖邊旅
夏旅　秋旅　月前旅
冬旅　雪中旅　旅行
朝旅行
月前旅宿　月前旅行　旅宿
旅宿感　旅宿
羈旅

羇中嵐　羇中友　羇中見月
旅泊　旅泊感　旅泊義
旅杖　自行旅之際　旅宿
海浮日雲　山家　山家嵐
山家夕嵐　山家杖　山家秋
山家路　山家送年　海岸夕雨
閑居　田家烟　田家　田家夕
竹色不改　竹群多春　茶煮海山經
杖　杖風　窓竹
霞杖　杖年久　海杖

度杖　名所杖　杖春
杖色春久　雜植物　杖鶴
鴻鶴　庭上鶴　鶴翠遲年
皖鶴　閑鶴　羇中鶴
郁鳥　籠　夕鐘
雨後眺望　海上眺望　海上夕望
山家眺望　羇中眺望　寄月
寄雲雜　述懷　寄木
寄雲　寄懷　老後
山家　依人　寄梁
寄情　寄源　寄世

羈中 |
悵落
寄愛
愛
寄德 |
孤
寄秋祝
寄秋祝
釋迦
釋迦
聲聞
色不異空空不異色 人祝

寄神 |
芟悵落
襄傷
神祇
寄花 |
秋 |
寄道祝
寄花祝
寄神祇祝
寄花稱教
菩薩
緣覺
大日
人界

獨悵落
無常
寄花 |
紅顏祝
寄淨祝
寄德祝
釋教
不淨不穢

真實不虛 薩婆訶王子周隙 安樂之祝
諸法門摩及 愛羅網出激妙音 如百千
極樂日月俱 紀 [illegible]
無三惡報 [illegible]
經於六歲為於法 [illegible]
亦不親近 [illegible] 安樂
愛樹多花果 [illegible] 菩薩
慈衆德 [illegible] 一切衆生悉皆佛性 [illegible]
非實接故 [illegible] 發願
唯有空 [illegible] 一門可通入路 安永集
[illegible] 神飛 [illegible] 雖成就 [illegible]
門 見 [illegible] 後 [illegible]

乎相於亟矣
又吹境界樂
辰市　鳴海浮　富士山
塩竈浦　雷峰為恩　比良湊
雞鳴芦　雜辨
怪奇　如石　奇句
梳頭奇　廻文奇　嫌諧
句歌百首
清潮八系　太祇系　句百首

春部

立春

初春霞

新しの春立ちぬとの霞のうすきかすみにふるとしん
浦くふ氷かすれて山門の柴の戸ちかく春立ぬらん
久堅の天の川水ぬるくなりぬ山のかすみの春の来ぬらん

早春

山陰の雪とけそめしかすみの春立ぬらん
きくうての松の雪とけそめしかすみの春立ぬらん

海辺の春

かすみてとけそめしかすみの春立ぬらん

早春霞

ふるゆき八重ちかさて新しかすみの春立ぬらん

早春氷

山門のうれしかすみの春立ぬらん
ちぬ氷の春立ぬらん

初春

雪の去る春立ぬらん氷の春立ぬらん

初春鶯

水田の氷とけそめしかすみの春立ぬらん
うぐいすの鳴くなる春立ぬらん

霞

春立ぬらん

晴霞

春立ぬらん

夕霞

春立ぬらん

山霞

春立ぬらん

名所

遠山霞
檜原霞
海霞
海辺霞

浦霞
湖霞
河辺霞
橋辺霞

雪

雪中雪

暁雪
曙雪
朝雪
夕雪
谷雪
雪出谷
故郷雪

野鶯

鶯為友

子日祝

若菜

[illegible]

雪若菜

野若菜

澤若菜

春雪

猿雪

山猿雪

[illegible]

野殘雪

餘寒

二月餘寒

梅

梅風

梅薫風

梅薫袖

梅薫袖

梅香薫袖

雪中梅

朝梅

夜梅

月前梅

行路梅

里梅

庭梅

閑庭梅

六宅梅

柳

柳風

雨中柳

柳露

春月

春曉月

春夕月

春月幽

山春月　小倉山の山ばくれそめてうすむらさきなる月氣
河上春月　大ク神ノ川ノ辺ニ望ミテ月ノ出ル時ハ実ニ月
水郷春月　クマノ神ノ源ニ入ル月ハ実ニ三ツノ社ノ
故郷春月　かすむ山ハ名ノミ残リテ月ノ影ハ昔ノ
春雨　淋ク降ツテ霞ミ残リテ月ノ影ハ昔ノ
春夕雨　色ノ郷ニ残リテ山ニ入ル月ノ
夕春雨　夜ノ雨ハ昔ノ人ニ会ヒ
夜春雨　雨ハ昔ノ人ニ会ヒ
河春雨　ハ昔ノ人ニ会ヒ
故郷春雨　ハ昔ノ人ニ会ヒ
旅春雨　ハ昔ノ人ニ会ヒ
帰鴈　ハ昔ノ人ニ会ヒ

[illegible]

曉帰鴈
夕帰鴈
夜帰鴈
原夜帰鴈
海辺帰鴈
湖帰鴈
水郷鴈
三月三日

[illegible]

曲水宴
維
雲雀
原雲雀
鶯
柳花
花

[illegible]

匂ひくる風と伝へこの花の香ハ花やあん
寒さを山さくら遠くもかの春の日かれや易ん
ひくく花をまつ人の
にほひかやうふ山桜をれ折ふるかさらえん
山さくらをしつかに咲ものうらしをうら
をそなつまつ雪も嵐ををえて花のうこふ桜ふ
山ゆを埋をとて笑花ハ出か桜引雪かとうる
花のうれ寒とふ桜をとろく山さくふ
まち秋の明りやに山のて高の奥うむかめり
桜さい花ふ与ふ者うれとをハやしのえ人をそ
つれりく寒を人のとはふ春うる花のひりと
さ伝ひのいふをれい桜匂ひさを八仲なくん

咲て変花の日数ハ春ふ花ふ三八ヘき方ハうをそを非
をのつくうれハうくの未ハををれハ春の花ハうを非
咲ハれハやうてうちる山桜いつとう花の雲ハ又ん
袖ふ多い匂ひにおいうをそふ春の山風
春ふ伝をうりしうをれのひりかはる方袖
を春おうして伝をうをれ人ちうをうしう
ひりく降ふるれををとふ人ちく春のたくをうし
ほのを春ふの桜乃桜ふ伝ふ又ををハうえ
うをし
かてうをうをれ山桜ふを非ふ春の花ハ変ハ
文保二年河猿住の後民部々内裏ふ漆をくさハ
らををくを春山乃春も又ふをしひりをれし伝ふ

九重の雲ゐの花を別てたゆたへ山さくら木
か、へ
吹風の後をしたふこの花の枝はなやかに
花のこゝろを情あり
もり作られ行らし
武蔵野の草の山里の花もちらす人の
ふるさと花の名所なる人ゆる
う雄し
さきかしむ人をさまつ
今日の山ゐとなる
なりしの山ゐ
まつ

深雪のうちのこゝろ
ほゝこゝろ
ゐ山ゐ住
つし後
ゐの
う名し
山里ハこゝ
ゐ山ゐ住
まつ
か、へ
この

花ちりて訪ことはゞ淋しからむと思ひてまちけれかくて
人待くもなや散を追むかしの雲と見まがふらん
源意は京の年に花を人のまつるゝとく
君かしきを人にもひとつくるゝ花とも見えぬ塩にしたり
とはしきゝしゝに
家の花ぞりも見ふもとのにけ散ふへとふふ見やなかりし
それのうへ備前入道嘆に寄すとかり送りけむし
世にもや別れし花のさかりさきにし後まての花の色とも
かへし
古への色と思ひてもちしと見えとられし花の色かと
寒江閑情園より贈りしは皆白庄の花乃法
かゝく人く十首寄する中にし

ちるとは休しかのを山桜を見るえん人やいつかへん

待花
春ぞとなに深山の桜咲やうて今たたやさき風のまゝけ
山ゆきわくるまではいとゞ見えていつくまもむれ見えさまに

待山花
祈信る花の香をたゞ今日かるとまえて乃山見

雨中待花
とふ人もぬしもぬれてまた雨に搖つれそつゝの山桜に

閑居待花
山のゝはに人をまちつゝ流る花も日数をとうけ見えに

初花
一木先咲初しわかたへての人乃色かをき初り
一年にかつ咲わけ枝さしすりえにそつきぬ桜やかるゝ

尋花
山深を尋ぬるかきりまぬも雪とぬもの陰か初と
山深こやまをちらへ入ぬにまよひ八重立やまかさかくえん

遠尋花
今きつる花も山らのとたり花もてあそぶかなるの花のゆれに

翫花
けの手なくあふそも見ん花をけしうつしぬきで見えれ人と

花未遍

花盛

山花盛

見花

見花日書

花下送日

花交宴

花薫社

花擬題

折花

喫花

胡花

夕花

いく文字も桜もみえぬうちまでて春の山路

萩花
まち萩の月は木の間を出でて山の端に入りぬ

夜隠花
萩は花散らずかくれなきまで来まる花の傍

月添花
勝なる月もさへそれは咲きし桜にうつる月

月前花
白く見ゆるの桜咲かかり朝やうちの月のかげに
うちわすれむとしつる昔は月の影しも咲くと詠みて
月夜の花さへ見えてみれはいかなるかやすらはん

雨中花
ある雨にぬれつる花の下露は雪とも見まがふ宿をみる

雨後花
山端に霞隠つる花の色やなほ衣にあらん
雪と見まがふ春の花も雨にぬれてなほ山風に吹

霞中花
雪と分きにくき花の下つ雲の桜いつもすむらん

旅宿花
見ぬ人は月かも山路の桜ねでうつろひぬるところに

十二

羇中花
とやかくふす山里は遠く先山路の花か宿やかく倚し

山花
吹きかへる嵐も白く山をかくれぬ色やさらにあらん

山路花
咲かかり山の桜にこもりえのくつとの桜見て見し中に
わけきつる山ゆく下に散る花の吹く袖をかくす

尋山花
山桜花かんばせの家路さへにまかれて桜ならむ
山ふかき夕かげの春風か入口もかはるとも桜に
ゆく咲きやかくれては見えぬもの花
山里にけふは花をいまもみる花色も見えん

山家花
山里かいふくみゆるはむかしやうなるらん
花のころ実に夜まかく花園か入をまねく山家花にて
いふらなけふらぬしか
気のうる花の色かはらんも咲く山の春か住すべ

又の日例こもりに入給しに
庭の面にちりしく花その名残をしみ給ふとて
ひとりに府大閑放於ちか作入乃てふし作られて
いつくも給ふ見まを抄色の花なき類ひなき花の色雲
色そやむ君かことしの花なきは類ひなくいさゝかも
山深く住居るかはらむの世の中のけりかりかれ
きのふまて尋ね来し君の花を今日は訪ふ人のなけれ
谷ふかみ見ゆる谷門の花を見るへき世の人そ渡る
古渓花
色なき谷の盛りや谷陰にかくれなき人の心
杜花
桜色に立ちて森の花もちりまかふ衣のかゝり
関花
あふ坂の関の戸さゝぬ世なれは人もこゝろなき
里花
行く里をとゝめて里の花を見るへき

閑居花
谷花

十三

原花
池辺花
河辺花
橋辺花
湖辺花
海辺花
浦花
濱花
禁中花
故郷花

山風の誘ふ春の日の原の桜もちりて散り
咲きそめ池の辺の花も我かなくやこゝろ
吹く風に古河の辺の桜も盛なるを待ちつゝ
山人の行きかふ橋の花にも足をとゝめ行く
白波にさそふ湖の花の色をも咲きのこし
海のあまも舟にはやく桜のさくを待つ春の日
風吹は浦の花散りかゝる里にも春や立つらむ
花さかりに山風吹く春の浜の松風にさそはれ
さくら咲きて九重の花をいかにか思ふらん
春をまちて人のこゝろの花をも我やみれ
その面影をしのふ故郷の花をのこす
さくら咲く故郷の花を人にしらせて

古寺花

興山乃横川の谷に花盛八重山桜やまとなでしこ

名所花

いくしまうまいさめるんこうめ山の梅ふかくさにも

庭前花

梅山ゆとしんかの花のさかりも桜やまんん

松滿花

雪のふ吹くらる月の白ふ梅わかいらくてぬ枝に

花交松

立ちのこるふ山ふ梅口吹ぬんろうつるきしぬ松の雪ふ

花如雪

梅花さもこそ春の雪なるふ梅枝につるふ山風

花京老

吹くしふ風ふそ降る日新京花雪につれるたとの雪

寄花述懷

文てたふ分の老ふ京ふ入れ花雪ふ

とと山て花ふそ山しんう老のちもうへ入れ

法はうてに山ちとふ入れおそ古十の老ふしめう

花ふうむふ入れ入ふ梅ふ老の後もきうるしん

寄花懐旧

なの思いかしむ入れ入ふ昔ふ思ふ入れ立ちまた

つれるて八十のもとむ山ふ花の春ふ山とこそ

八十とふ分つれるふ山ふ梅ふ山ふ山の春れ梅ふ山ふ

西行と人住作りする双林寺ふ山ふ山ふ

むとふ山てふる

法しふ高ふ高ふの高と西ふ山ふ高ふ山ふ山の下法

かの京日にふ山ふ山ふ遊ふ山ふ作ふ山ふ人ふ山ふ

ふ作ふ山ふ　ふれ

住のふとふ山ふ山ふ住ふ山ふ梅ふ山ふ

於楽院ふ後阿上人ふ山ふ山ふ山ふ山ふ

ふ山ふ交ふ山ふ山ふ山ふ山ふ山ふ

花友

むし法交ふ山ふ

花院

花ふ山ふ盛ふ山ふ山ふ山ふ山ふ山ふ

花下陰
花間鶯

てつを忘れ桜木ちりしみのしたかさねて名残つきぬ
末待へい後出し是曽の花風そ花のふかなひる

風前花
惜花
花後
風多
花を風
落花

花ゆや咲すぬ雪ぬ花ぬ
匂ひより誘れぬ
ふるえ花ぬ
この中ひらくるる
誘ひ
桜花ゆやちるん山風の中ふ吹ゆ
さんぬ花ぬ盛ぬ
都人ぬ
ちらての宮ぬ
誘ひ風のやらぬ

ちりる人ぬ
ちるふ桜むけ
ちるふ
春きぬ
ちるふ
ちる花ぬ
木末より
桜花木末ぬ
やーなり雪ー
いつぬに
氷郷落花
立波の白ゆ
河落花
しの川ぬ
池落花
芦ぬ

開落花　[illegible]

行路落花　[illegible]

夕落花　[illegible]

惜落花　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遲桜　[illegible]

[illegible]

[illegible]

鄭櫻　[illegible]

山鄭濁
欽冬

[illegible]

河欽冬

[illegible]

藤

[illegible]

水邊藤
池藤
杠上藤
暮春藤

春曉

[illegible]

春天象
春地儀
春欲暮
暮春

暮春雨
暮春寫
暮春月
山家暮春
浦暮春

三月盡

草菴和歌集類題

夏部

更衣

朝更衣

都鄙更衣

餘花

暮餘花

殘花

山殘花

庭新樹

卯花

夜卯花

社卯花

里卯花

菱

牡丹
郭公

[illegible]

待郭公

[illegible]

八傳部に

郭に未遍

初郭に

遠郭に

曉郭に

夕郭に

夜郭に

深夜郭公
あかつきやうくのこゑきけど時鳥深夜やまらぬ初音の御代

山家郭公
此里に拾つれつゝいかに親子あつてゐる山のおくへと誘らん
やまと寝かさしほとゝきれど寧楽

杜郭公
うれしきよ文をふところや時鳥まつ初声を人おとすらん
時鳥床しりてる杜の木かげのおぼろの森に鳴く時と見るらん

湖辺郭公
船とむるひとつ湊にうらめしく山時鳥抄ふてきつ
鳴の波にこゝに出てきけば時鳥よみそぐはそくらぞ鳴つる

江郭公
あまめしむ里副ふり時きこえし浮れ代かさそふ

郭公遍
くさくいつか里やそとなく声ふ叙しつゝみの浜や人の心殺
時鳥鳴わけゆく見つのうらしも鳥へ不さ何へいるやうなり

早苗
時そとやは若苗かれ松のしへいつもかりのゝの民品

ふちりし先おちて来へぶる小さ田もあさしに若苗
つくてお山ゝれくもる五月雨の雨井もさゝへ近
見はるか沢田の早苗も深さ汀井ふふやとうしん
見晴て夕日かれし早苗とる田子の袂露下濡て乾ゝ
汐くまる神さへ知れて湊田のさかりく見えぬあまつのて女子
まとをの門見て小田に船とせて早苗見え宇治の里人

採早苗
佐よみそし　そふ小田にむかへて秋のしるしの若苗え

山田早苗
山人は家路業めよいそくと田し見へにさうへれし
同じくの岩やかの州とあかりの芦や濃き流るかやうへは

菖蒲
あやめふくふやまはしたるは又にやつれたる菖もあやめ
なかめゆ州河ゝさ流れはあやめ宵淡鋪る根まても出
又宵又菖蒲とそへて結ぶ用しくりみる州の根そ

新菖蒲　ことしのあやめ新しき例とうかゞる若のあやめふかでうる

水辺菖蒲　みぎはのあやめ若の水にひきてわがやにあふる沼の泥

夜盧橘　園たく花橘の匂ふ夜をもよふもしりしまで

はる／＼きても橘の花ちる里は夕ぐれかゝる

夏木　思へとや花橘の匂ふらん我身ものこゝろもさしと

五月雨　よみかたなる頃五月雨は乗行る江井の水

さみだれては今日のかげも見え八十氏川のさゞれの流

打深き瀬とやなりぬらん日数すつる五月雨かな

ここは門跡もひとつにもそのきを浮るさくれの比

五月雨に淀の継橋絶ゆ渡るころ浅き淀の

こもりゐてまた五月雨はのうきにうつむそらえ角

船こゝに五月雨はさとそ渡る舟の川波

さみだれてもふかる二条中納言家よし

あふちの降頃なくハ五月雨はまさるこゝちのみかれ

なるし

暁五月雨　五月雨にふりつくりと夜明あさきにうつらはまさる

五月雨久　あさまあらひて明ても旅寝のやうと情む五月雨の頃

打つゞきふりあらの村櫻も打ぬれし僧の袖の夜

五月雨晴　五月雨は降かゝりて空まもらんかも晴まてれぬ頃くも

松五月雨　久しく家は雨もふりと五月雨ひ晴を流祥へ

河五月雨　浅き日の五月雨のさみだれもうちと一枝もくれぬ五月雨の頃

うきかたの衣ぬれにし五月雨はくまへ晴るかは夜ふるみ

五月雨にて打つゞきまる池やそこの松の空もそくれる

かはるかの波も今は五月雨にその流のふ床の山

[illegible]

池五月雨
浦五月雨

湊五月雨
瀧五月雨
野五月雨
蛍

夕蛍
水辺蛍

[illegible]

河辺蛍

橋辺蛍

江蛍

澤蛍

野蛍

草間蛍

籬端蛍

晩夏、蛍

蟋蟀

夏月

夏月

山夏月

浦夏月
三熊野の浦濱松のかけしけく月とへよろふかゝる浪よ
きのよは見の出汐のひく程もなくてそ明る夏の空

雨後夏月
夕立の晴ゆく空の月みれは村やとるゝ露もふ
山まゆのうき雲も過れて山の端よりとゝる月影

夏雨
と名乃降も過にし蛙の声も山かけりし行あめの声

夏朝
夏草の末葉につけて結ふ露さへ涼し朝なゝゝに
その名残はまよに夏草の露もおきて月をまたん

夏草
夏草の末葉も深く茂りあふ霧の見えぬ外ふ
名るかさん人もなくてれ深草の里は袂も指く声るこゑ

野夏草
岩代の野中乃松の下草も結ふてよろうまけ
なり深き野中の蛍れ隠れて結ふにあまて乏けなる

閑前夏草
夏草の茂くふ見えぬ萩の色とうしせてふる乃へ入りなん

庭夏草
庭の面と茂るかたもなきわかれうつゝと君はかよひこし
たゝの掛しなき庭に咲かたり秋の錦のところゝの色

瞿麦
とこなつのうつ名にあるゝる露さへもこれぞ名くれ花咲
やよしてみれもむかん夕影に咲る撫子の花の色ぞこき

籬瞿麦
山陰や七瀬とのかゝる夕暮に咲る撫子の色を見せてこ

鵜川
しのゝめに下る鵜舟のかゝり火もてらすや下にうかふ

照射
夏草の茂みにまよふさつをのとほしそふるもかくる文字の末

暁更照射
立ぬるゝ茂けき端山の木の間かりそふはかりもかゝる影
をかしきさへ嵐立つ茂やかしん

水鶏
夜半の木下闇にかゝりそふ月の影とそ見る

蓮
にごりなき池の蓮葉の露

白雨

夕立風

夕立雲

山蟬

杜蟬

夕蟬

納涼

水辺納涼

泉

泉避暑

志賀辛崎

猪野葛

河夏祓

六月祓

草庵和歌集類題

秋部

早秋

早秋風

初秋

朝初秋

初秋風

初秋夜

初秋朝露

残暑

七夕

兼待七夕

七夕月

七夕雲

七夕夜

七夕河

七夕橋　久かたの雲ゐにさためし鵲の橋わたるらん星合の空

まつ一とせたちかへりしけふの秋くさの露やおくらん

七夕馬　今宵のねも人かるらん引しかの天の関のゆるしもなし

七夕後朝　いかにせんかくそなけれる七夕の別れの後のおもひやられて

秋毎の天の川原に濡る袖をほしやらて今や別るらん

閏月七夕　うたゝねてまたふたゝひ天の河わたりの舟出あるかな

萩　これのみは咲きほこりたる萩の花露にまかする風のふくらん

ふる里のもとあらの萩に夕立の雨もさそひて秋風そふく

萩の花ちる宿もなきまた後も白露のむすふをまつらん

古寺の萩の花に風ふきて吉野山

夜萩　通ふ夜に起ゐて萩のはなをわけて行人はよるそ寝る宿

夕されに秋のよは萩吹く夕の萩の下に

家萩　[illegible]

萩露　[illegible]

庭萩　[illegible]

萩風　[illegible]

萩　[illegible]

萩夜　[illegible]

野外萩　[illegible]

壽

月前薄

蘇黄

草花

朝顔花

草花

庭草花

閑居草花

草花靡風

霧中草花

月前草花

[illegible]

月巡草庵

禮

小鷹狩

露

曉露

野露

野禮露

野外露

野外秋露

秋夕

[illegible]

秋風

海辺の秋風　蘆のうら風空めく浦の秋　蘆のうら風
白波の浪打つ音ふきさくて秋吹風もいとゝ物
悲　潮津なる海人の袖ふる秋風
秋風　秋風の吹くとしもなくてかぬるらん
同　家秋風　秋風の吹くとしもなくてかぬるらん
秋　雨　秋の雨はつゆの秋ふる秋の雨　いとゝ落
秋夜雨　秋の雨はつゆの秋ふる秋の雨　いとゝ落
秋之事　秋の荷　風とゝもに沈の音ハ秋の
秋天象　中そいてぬこゝろ　秋風の日毎に
秋動物　秋風の日毎に　秋の
秋植物　秋　秋の
秋　同　秋

鹿

月前鹿　秋かゝる月ハ
月前岡鹿　こゝ
藤中鹿　立田山
胡鹿　世ハ
夕鹿　夕
夜鹿　夜

遠鹿

山鹿

秋夜山里うた

暮山鹿

野鹿

田家鹿

田家夕鹿

雨長鹿

鹿色何方

鹿交草花

雁

朔初雁

山家初雁

月前初雁

明月聞雁

夕雁

田之雁　宝

蟬　宝

夕　宝

夜　宝

月　宝

蕭夕　宝

閑庭　宝

旅館閑雨　宝

宝聲遠

秋の来るものとしてそ

霧

朝霧

雲山霧

河霧

河上霧
湖上秋霧
浦霧
渡霧
田上霧
駒迎
月

山川のそこはふかく秋やとて光ふかるる秋の初きり
川霧の波よりかすかに秋の初きり
秋霧にうもれてそこそこの波の末紅
秋霧のきくの田の沖の波るもりの秋のいとく船舟
夕霧の川霧の波のもとそんの波のもとの川霧
いとくもとそとそ泉川ふかくとてね秋の夕霧
夕日さしそ初田のいとく絶くふ霧の絶る秋の山な
でハすてとこうあくふりお波とこ霧て出るもの月の絶
よりふるおのこのうのうのもとの出てもの四面をふ月そこ
ゆたのうつのうつのうつのうつのうつのうつのうつ
ふくうの霧ふうの霧ふうの霧ふうの霧ふうの霧ふ
けうまてふうの月の月の月の月の月の月の月の月
なうもうくもうくもうくもうくもうくもうくもうく

八月十五夜

待十六夜月
九月十三夜
法心見月
心家見月
雲間月
霧間月

たりしのたきの月のうつに出ぬ月の月の月の月の月
月絶乃やもも絶乃やもも絶乃やもも絶乃やもも絶
月吹ハやハやハやハやハやハやハやハやハやハや
いうて月の秋の一なハなハなハなハなハなハなハ
秋秋ハ四月波と半しい水ハ波の絶ハ波の絶ハ波
老てこうおしひの月ハ長成絶ハ波の絶ハ波の絶
かねくもりはうこう秋の月ハ長成絶ハ波の半くけん
ひうくくきかのもしこうこう四月の出ハ波ふする
絶ふくもけうくくもけうくくもけうくくもけうくく
月絶ハ波ハ波の秋ハ波の月ハ波ハ波の月ハ波ハ
行出てこうの行ハ波ハ波の行ハ波ハ波の行ハ波
雲間月
霧間月

立こうくくこうくくこうくくこうくくこうくくこ

霧上月　夕霧をかさね田の面に吹分て月はくもらぬ秋の山風

月前霧　山の端にかゝりしきりも月に霧立のほり明かたは山

月前時雨　さそはれてゆくつもの袖乃ふかきもしくれ行月の都

月前落葉　落葉にも秋の末乃荻の上に光りもしもやとる月の影

月能夜　松の袖の香をあふる月のみにかゝり老の涙をそしる

月似霜　うけとれすへるとこれはたうふとく月に疑と霜をやはらす

暁月　月影もかゝるそ捨二の海の外代のかり影をあゝらん

暁更月　へ方にまつの末つらをも月そ心つくしの旅へ出る

暁月隠雲　あけはてる暁にきえて北入方は月そさしそへた

海辺暁月　月のかすかにたえもうたかたを定めさぬ影に涼しくかる

夕月　下は後も上つまえ月をかすく沖は白浪

絶えよる秋の風とふつきん月待出る夕かゝりまされ

山月

もろこしも高き山の下にもまつつけて月を待

山の端に夕かけ雲は立かくし月にかゝりけるかな

かゝりけるもやまて雲のはれて月のかゝる

立のほる月なくりしてふかき山の嶺

白雲のうつりたる峰の秋月を手にも宿る雲そ

月出山　出にけり山のはる月さえ張おれ八嶺やこえぬ秋の夜月

高山月　月はなや木の下に見えて山端は夕かけをとえこ八松風

深山月　行かゝる影は杉深まとなれ月とまちに宿てみとる

木高き山の月は影なれやうつしまかれむ見て

山嶺月　夜々影とは中く奥山の月をそ袖とめてしつるゝ

わけ来た月半にそ白やれはかる衣と立の都り見れ

谷月　山深く木陰てゆく谷そうれもむ月を見まくらぬ月なる

霧 月
野 月
野分 月
野径 月
野ちかき渡 月
朔 月
橋下 月
澤 月
江 月

江清月 近人
河 月
海 月
海上 月
海辺 月
湖 月

湖月

浦月

鴨月

渡月

都月

里月

山家月

山路月

田家月

古寺月

[illegible]

月向月　秋夜八重垣屋敷の新しく作る月新
竹向月　小枝ゆ見まきて竹の葉乃ゆさ〻ぬ[illegible]
月茅蜩　月のいかくもかくる関のをくに行と[illegible]
月虫鳴　月下る沢田の雲ふ[illegible]略の水ゆ[illegible]
月虫猪　秋夜ハ[illegible]
月虫蕎　月[illegible]
月虫鋼　月とのゝ[illegible]
月虫義　[illegible]
清月　入月と[illegible]
対月思者　[illegible]
月万秋夜　[illegible]

[illegible]

九月秋人　[illegible]
伯母者秋　[illegible]
九月十三夜　[illegible]
境山秋　[illegible]
宮城野　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋のこゝろ、こゝろ、ちくれなる竜胆の花のうつり
山里ふ月は時も佳なるてやてんのるるうろ紅
花ある紫色の中に一つ白ふ花ありこのこゝろ
こゝ後つゝ白ふ花ありこれ平ふ月のかつり結
而紅もおりこゝろ
ちくさ人夜ちくく信ふ花ふ秋の花ふ表を、ゆふ
表のこゝろおりなる花も仏門の次ふつけてゆきこゝ
里八ふ秋ふ花ふ表こゝ表こゝ仏こんの紅の表こゝ
秋の表花ふ色こゝ大体のこゝはのこゝふ表こゝん
ふ人ふこゝ山ふ秋表ひこゝ山ふ表ふ表こゝ
表きこゝ表人の表表ふて表ふ表こゝ表こゝ
除こゝ仏下みこゝなる里ふ秋風ふ表ふ表こゝん

猪衣

秋きこゝ表の表ふ表ふ秋ふ月ふ門表こゝ
こつまこゝ柿ふ表ふ表ふ里ふ表こゝ表ふ表
秋人のこゝふ仏ふ秋こゝ表こゝ表こゝ表こゝ
ちくさ門ふ表ふ表ふ表こゝ表こゝ表こゝ表ふ
秋きこゝ山ふ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ
表ふ山ふ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ
秋表の表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ
表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ
表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ
表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ
表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ
表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ表こゝ

月前猪衣

夕猪衣

夜砧衣

海士砧衣

遠村砧衣

小家砧衣

里砧衣

砧衣遊

鳴鶉

野鶉

菊

月前菊

菊雜序

菊歌

康安元年九月四歌

[illegible]

[illegible]

紅葉

[illegible]

夕紅葉　[illegible]

月前紅葉　[illegible]

月前楓　[illegible]

山紅葉　[illegible]

紅葉遍　[illegible]

名所紅葉　[illegible]

[illegible]

紅葉に[illegible]

[illegible]

鳴子かゝし

鳴しものは大かたふくるの音もおどろかし鳥を追ひ人をとゞめて庵を守る
そのかゝしのたぐひとおもひなぞらへて
人をおどろかすにもあらねば
それの山もよしや夏ふ成くての比のもなれ
秋の末に鳴子の音もかまびすしく冬の国へうつる
ことをつげしらせ

秋風のふくをまちかねて鳴る生田の杜のけしき
かなし

まちかねし生田の杜のもりかげに鳴子の音をきく
ひとすぢの竹ばしにかゝりて秋のくれをしる
身もふりまさる日影のこる

暮秋

暮秋月

としぬる田面の日影くるゝ時分ふくみし秋の末の
ものすさまじき月かげふるさと秋の末の
わか秋の末は野分の霜枯てものゝあはれのこもれり
かなしくて秋やゆふかげの白露のこゝろ月のかげ
見るものゝ哀さへうすくゆふぐれ月の影も秋のかれゆく

暮秋鳥

鳥ハ空にかへりなん秋の末に飛行の雁ハ
ものさびしく秋のとまりの空のいろ秋の心ふ
かく中空の霞に流るゝ日数も行く秋のかれ

九月尽

九月尽夜

閏九月尽

まことにも秋の果の夜に行く秋の名残を目にはしらぬ
つなぎとめても名残をのこして其月の名にかれる

九月尽こよひのはなしみえこもるとも
せめしのハ夜の未の名残ハ秋ハ尽ぬれ

冬

冬

冬

萍菴和歌集類題

冬部

初冬

いつくふり秋とゝまりて山風の声にはなるゝ夜はさむきの一村の秋をとゝめかねて吹こゝろ一の尾
初冬時雨
初しぐれ降るゝ林の紅葉も色もうつる色かな
そゝまゝたれふりて行く林の紅葉里めぐりけるかな
晴雨
山雨はやるひもてる山風の吹さきるかゝり寒れか
時雨の里こゝろ林の紅葉はうつるなり日陰
いつくとも山のふもとの紅葉まつ
紅葉の戸にてもしぐれ村雨山めぐりする仕るゝ
松ふのゝ雨をのゝ山風の吹より行る村しぐれか
ちゝれ初てぬる村しぐれ伝太杜のゝ枝のゝ中に

ちくゝ初しぐれはやうて又雨か村しぐれか
行ゝ時雨とうつり又後ひくる雨をとゝ
林の月雨の来れ村雨は又さらにしの時雨めゝ
冬の月雨ゝはやうて時雨きて雨ゝ後紅葉の時雨
大雨雨ゝ雨ゝ雨ゝ
雨ゝ雨ゝ雨ゝ
風雨時雨
山風の吹行ゝ中後れて雨ゝ雨ゝ村しぐれか
暁時雨
うゝ雨あと世ゝ雨も出る雨の月かきゝ山雨の雨
朝時雨
出る月の月の雨ゝ雨ゝ雨ゝ村雨に雨ゝ雨ゝ雨ゝ
夕時雨
かきゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
夜時雨
時雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ
屋上時雨
雨ゝ秋の雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ

海辺時雨　すまの浦難波の浦の外しあるはぬらすぬらす秋と

落葉

神無月ともなれハ木の葉を吹風に山ハ皆あらはれ
こその外にも見し紅葉の色ハ皆あらハにいつるなん
あれもふつくしき紅葉といつくにもあらさりし山陰の秋
落葉ハかれとても山風の後ハ木のもとに深く色を残
さりけるハ浪もまさりて夕風のふくにつけて木の葉
吹あれハ深く入の色なるらむ家もちらさりける
うつろひて後ちりもその雨に散て木葉の浪に人の
大井川の木葉の時雨にて力をれのなも色ふかけける
神無月積りし千鳥波ねの床にたり落る木葉かな
浪重る枕に風や鳴つたる木の葉そうかんなる
ちりかかるを見てちりつる色も山松と紛さぬ時雨かな

落葉霜

時のまに嵐そ誘ふ八日初つてまなれも浦のうへと
ちりのれハ夜てもひかりるれ共て積る木葉も霜の上也
木末にふ積りとこるに山風の吹たる跡の落葉かな
風ハなと深ちらん落葉のさしも深し山の木葉と
山さとも風にちりくる紅葉を下ひらかつたちなくらん

落葉雨風

朝ふくる落葉ふりてもぬれつれ者秋の限も見えたる
きたいふ風にちく落葉は積る落葉を風や吹らん

杜落葉

神無月は日浪し木葉のちりかひて時雨もふいつるれ共

路落葉

冬枯の杜太杜の下陰ハ積るも秋の木葉なり
ふミ分て木の陰路をもとへぬきこれ紅葉吹く冬の山風

河落葉

行人又渡りし水とせくるまて木の葉積る冬の山川
大井川井関もせきあへす流るにちる木葉かな

流れ川流の水も淀むべて山の木ぶかいちらしたる
紅葉の面に降るもとりもとりてもむ山川のあ

勅撰院の隆房卿

ゆふ山の下紅葉やはらぐ
ゆふ山の紅葉やはらぐ

庭景集

ゆふ山の紅葉やはらぐ
ゆふ山の紅葉やはらぐ

秋歌

朝霧

夕霧

寒草

秋の野の草の花の色の
秋の野の草の花の色の

夕霧

杜寒草

野寒草

野径寒草

刈庭寒草

寒草

氷

湖氷

池氷

江氷

海氷

河氷

湖氷

冬月

河冬月

江冬月

湖冬月

寒夜月
推栄
千鳥

夜千鳥

海丑鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

暁氷鳥

夜下鳥

雪中氷鳥

河氷鳥

澤氷鳥

[illegible]

池氷鳥

冬の池乃芦[illegible]

池水に鳴の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一考に

そこ水

鳴

烟代

[illegible]

夜泊代
閑霞

六月霞

篠霞
竹霞

霞初天
雪

泊代もれぬべきあの家ゐ松ばかり終りに出るうらの沖風
風さえてやがてみんなの田と泊に出るうらの
中代の竹に竹の葉なびくやうてとりかこまれる
葵沼のなかに浮たてる枝は一村陣おろしかぶ
れ伏るる葵の葉ハ名ゝ枝しをれかくれそふる葵ハ
うとへてあれわの枝ひきつゝてよろハ葵ふるし
と一ばかく小田のとハ夕葵と柳ハ糸ふるつゝられハ
葵ふるれ代やの竹葉と葵ふるうるこ出さ
こけれ代ふるて焼ふ冬さゝ葵代とふるの泊つと
ふるとハふるうけさい深雪ふ冬ハ人ゝまるまるふる
深雪ふてふるうるる松葉と深ふ柳ふふの風ふ
雪降ふ柳ふふ月ふ月ふ代に松ふるうん

春ふる雪深代とふるの山ふふ月代ふ
時て代ふるふ月ふの雪吹ふふ代の下
ふふふ松松ふふふ月ふの雪吹ふふ代の下
いふふ深雪ふ松ふふふふふふ月雪
雪ふけさ泊ふふふふふふ月雪
雪ふふふふふふ関白ふ
ふふふ松ふふふふふふ
泊ふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
雪ふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふ
泊ふふふ

降雪ふんの行の初是はいう牛なるこうかのこうん
ふふ行はしてう雪の初雪花か流入を大強と雪より
絶ふふ絶うを絶んは雖きふ山里へうふけを白雪
うるう
あるのえの絶えをうの雪浦をふはいれや雖つ迫
れ雪初ト之代中絶のはうと無しをいれ時に雪より
降しうう雪のわりをたり降のし
ふうう雪の絶を絶て三雪ふうるまふうつるみを降き
うるう
三笠山みるる雪ふは白雪の雪の絶をたうと
雪の降日ふ降に成うふうと行の帳帝の雪の降絶
いうふうをれて人の日降しう

初雪
山初雪
庭初雪
流雪
猿雪
暁雪
曙山雪
朝雪

山里は行ふ日行の雪は雪に着の絶をうれて
雪うふを山ふ山の尾とうとうれとうれの初雪ふう
山陽はふ里絶を絶て降りる雪の絶うる日を初雪
冬枯の猪はいまき雪は雪の降て松より一つる雪の
けさは山絶をもつ迫絶の雪つうを迫えへと絶き
ふりまた五月の月の絶のと雪へは雪にうれを雪
雪ふれはやとりわうれはうきれはあまふはる雪
白へ人の夕雪ふもは降れはふはふはる雪
冬雪もはるをやふふふふ人雪やは雪の光雪ん
天の月はふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
雪やふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
降うふふ里絶山雪絶の雪の雪の降の雪の雪の雪の

夕雪
山雪

[illegible]
[illegible]
三輪の山桜京八雪の消なまふるあるこ[illegible]
[illegible]雪とぬきに又をうてて泊ハ[illegible]

原山雪
遠山雪

つもれる入る山の雪ハ[illegible]
降雪ふ深れてこそをとをもうたと
此一度大夏を雪白ハ乃ハ[illegible]
くるを及つぬをとのうく松ま[illegible]
とあをこりとく作し後
天後ふをふつりく　[illegible]
かうけ[illegible]波のあくもの[illegible]
[illegible]をとの雪の奇[illegible]

[illegible]
降雪[illegible]
大夏[illegible]

遠山雪
山路雪
嶺雪
宵月雪
林雪
野雪
野外雪

関雪

関路雪

関路暁雪

行路雪

橋上朝雪

河辺雪

海辺雪

湖雪

湖月雪

浦雪

庭雪

松雪

雪うれハ[illegible]やなれの色と葉のけてわかいろいまむ
かりうら枝のもゝ[illegible]ゝ尾上の雪ふ[illegible]
夕日さしうつるとの[illegible]あるいつゝとうるとうるの[illegible]
雪ふりかゝる立乃らうれ指五月ふ[illegible]
信奥の伝来の[illegible]月のふる三葉のつゝと指くゝ[illegible]
くれのゝ[illegible]

扨雪
鷹待

夕雪の時
炭竈

遠炭竈
炉火

[illegible]ぬとき[illegible]
[illegible]
[illegible]の三位の佛乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

焼炭火
神楽
佛名
宮中又扨
早扨薫風

十月[illegible]
[illegible]

歳暮

[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

歳暮雪

[illegible]

歳暮

[illegible]

冬夜

冬動物

冬述懐

冬寄[illegible]

[illegible]

底

初音

行くたつ所なく人とうしんしんろうろうとふ殺そうぬ方に
つすりてこ所ゆ所ゆはこのもれなれおつけてそ服ろ
いくなりぬの十人ばかり者ぶ服とてそ又ちうちうしそ
とのつうつあれちうろうなうれ中ちうつ殺ひれとこ
ゆりにせめてとうろ笑やうろうろうこのふ殺ろうん
なあ又ぬはうき金れ殺ろんうあうとれうれ
ふうくに色ゆ殺ろうえてこうつもう
なれくれえれいうの海ゆ中風おやりせれろり殺我
光吹山の番へとりやれうやくもりをうけさ色つ
なうくれんぬたうにおつれなれいうれ今ぶ
つうぬれ彩音れ赤ゆれおなれやれりれうれそうれん
えうきの初りろ衣ふうてうふは色にはうと紙れ

思不言意
思慕

焼ぶ尼むつかの海なれや今くりにかのうちいい
今りやうをたうんあうもやうて来ふ迷のはは
やうて又恋ふをあうく人きれれんれ殺とせ行ちうく
ふ当にはれそわけるふうくかくうもうふれはうれん
ふれなうろうにつけて中ふやふんとりしうれつ
ゆれやくんゆ海ゆそそうかにうくこちううん
ちゆうんれ関ちゆ海ゆやくんの乃ゆそんとん
ゆそうろう海の乃ゆやきせれ者ち牛くふ殺ゆ
月なくいくく殺とうく海とうしまうれ人くもうろ石立様
殺ふくれ殺ゆれすれ火れゆうれうてゆう殺
中はれ殺烟吹ゆ殺りれれ火のうゆ氏たゆうれれ殺
独のうに為ゆうん海ゆやゆせくんの殺ハ人ふゆうれん

[illegible]

悪久悪

悪深悪

[illegible]

生悪悪

忍待悪

[illegible]

忍不定悪

忍不遇悪

忍契悪

忍絶悪

[illegible]

聞恋
聞変恋
見恋
祈恋
新神恋
新久恋

祈身恋
誓恋
契恋
契久恋
契後悔恋
契絶恋

三年不見書ゆとさりのむ章とふ物もこれ雲かれうの三笈の
別　恋　とゆ成りゆ乃わ〻しは後の儒衣ろうに付てかゝる
うくかゝやゆゝうゆ〻ゝ〻ゝ〻ゝ

夕待恋

毎夕待恋

朝待恋

待空恋

速夜待恋

暁待恋

遠恋

初逢恋

初逢恋

[illegible]

離逢恋

[illegible]

稀逢恋

[illegible]

後朝逢恋

[illegible]

変逢恋

[illegible]

旅宿逢恋

[illegible]

別恋

[illegible]

翌別恋

[illegible]

暁別恋

[illegible]

別後會雅朝

後朝恋

後朝河恋

逢不遇恋

不會

不逢

忘名恋

歎無名恋

顕恋

絶顕恋

絶後顕恋

獄恋

故獄恋

疎恋

変恋

絶逢恋

風聲催恋

殺妨人恋　くてのくに信濃の国のあらたもりさまの
梓恋　かたらよ我身とうらかれ衣焼神へやきとゝ成るゝ
久恋　ふりてつる中十日ゝ振りやうゝ雨ふる日(めゝ)分と
隔々ゝ水うたの久しきゝと恋むくうれさ
しとゝてうたゝとゝ玉たゝオもなゝ仏ゝつゝさゝん
舊恋　いりかゝるゝ雨ふゝたのゝ雨ゝとゝ流ゝ
遠恋　ゝい雨ゝ月ゝ尾ゝ月ゝ雨ゝ着ゝ
あゝ故ゝ人ゝ恋ゝ
菱ふゝ
ゝ中ゝ
遠恋　ゝ
遠路恋

片思
思
故忘れ
恨恋

ゝ私の八重むぐら
つゝ人ゝ
いふ
ゝ中ゝ
むゝ分ゝ
つゝ
ゝ
ゝ

恐恨恋

互恨恋

恨終恋

絶恋

絶久恋

絶不逢恋

絶初恋

月前恋

月前待恋

月前旅恋

月前別恋

春恋

夏恋

秋夕待恋

霧中恋

冬恋

寄煙

夜恋

不通夜恋

限一夜恋

不所恋

朱雀里恋

老恋

面秋恋

寄月恋

寄月紅恋

寄月恋

寄月恋

寄月鶴恋

寄月恨恋

寄雲恋

寄風恋

寄烟恋

寄虫恋

寄雨恋

寄岩惡
寄宮惡
寄山惡
寄松惡
寄野惡
寄原惡
寄園惡
寄池惡
寄磯惡

ちくさに成ぬるとうん志ゐてかとらしめまうかいへ
ぬくとんぬいつるとうのなかしのゆらしかいーとあ
今文ふうるむかつ
まうとなるとぬるとかしまうけ山さくしちくるとん
らうるとうとうとかいるとまうかいとうとうとうとうとうとうとう
雖とうとかいるとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
おいはいとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
いうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
あいはいとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
くうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
なるとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

寄沼惡
寄河惡
寄海惡
寄湊惡
寄洲惡
寄浦惡
寄汐惡
寄草惡

とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

寄恋草恵
寄思草恵
寄菅恵
寄藻恵
寄木恵
寄花恵
寄花恵恵

寄月恵
寄水恵
寄獣恵
寄虫恵
寄源恵
寄石恵
寄鳥恵
寄樹恵

雜

寄道具
寄衣類
寄紙類
寄書類
寄弓類
寄鉄類
寄漆類
寄器類
寄天象
寄雜物

[illegible]

亭菴和歌集類題

雜部

天象

くもとあらし絶えまも苔の久しきに月日の光ひさしかりけり

天色無情

なかるらん雲とうつれる月の光ひとりぞ山の水の底

流水浪を根

ながれゆく水の底にかくれなくうつれる月の光ひとつ

曉

見るる紙ぶすま曉ちかくなりぬ

曉雲

山端ゆ出る雲の八重たちそめて空の中にうつりそめけり

海上曉雲

海の上の雲の八重たちそめて空の中にうつりそめけり

山端雲

さくらぬる山の端の雲の八重たちそめて空の中にうつりそめけり

瀧水

一筋ながれもきえぬ白糸

旅部

山路

山路をとりそめてより幾つ越えぬ白雲かかる峰の上の雲

海路

海路のあかつきの月の光ひとつ絶えぬ白波の上の雲

山路

山路をとりそめてより幾つ越えぬ白雲かかる峰の上の雲

古路

古路をとりそめてより幾つ越えぬ白雲かかる峰の上の雲

船路

船路をとりそめてより幾つ越えぬ白雲かかる峰の上の雲

海路

海路をとりそめてより幾つ越えぬ白雲かかる峰の上の雲

山路

山

関路旅
海旅
海道旅
湖道旅
夏旅
秋旅
月並旅
冬旅
雪中旅

二条前宮相承院の[illegible]
[illegible]
[illegible]

旅外

朝旅行
月前旅外
旅宿

久々とかのこのとあやかうれしくまた又月をまちかねる
月前旅宿　波のうへに　なみの月と　あそびつく　山のそとゆるかすみ
旅宿夏　菜花やくさくさてかくれの　緑なの　夏かこんてかくれ
ふるいけのそこ　うつる夏　名残とて　夏ふれ　れそ　ふるいけ
ふるみ　ふ　名残　ハ　夏　ハ　ふて　張　の　夏　ハ　こ　ふ　ふ
菜花　休　ふ　ぬ　ふ　里　の　夏　波　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
くれ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

山家

旅泊雨
旅泊夏
泊　秋
舟行夜己源
海　路
海路月雪
山　家

ふるのあまそそるふるの波の波ハ花とふるさん
ふる雲ハ夏ふる花やうし寅の波の花に月とのそそて
波波濤ハ秋行のうれ秋ハ月のうれ秋ハ月のうれ
濤ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
伸ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
和田ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
吹ふ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ　ハ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

友うの見た山の奥ふかくはいりて
行くに人々とそいて山中にいる事
山のうしろ世のうれしきものなり
とのうつくしき事とうに人々とに住
さしのぶ山里にはいる事
かくてこそあれ山里の住まひ
慣てらるものしとやうに
移りかはる山の月日はいと
新人かつらの松やの山里にしられぬ
今夏にはいりてはいとこ
さしさと世のやうねん山海をうばうに
来山のおくふかき所のつりうの人のもとにはいりて

仕りしに人々はなくてうらうらこそ仕りしに
そのをりをむまれつり仕りし

山家嵐　たへてすむ山のおくふかき松風のこゑと変ずて人の住なり
世をうぢうれをきのはとはいとてうれしけ

山家夕雨　山里の松のわくにはたてうれしけ
秋庵は新とをとこ人をこそうるふ沢の水風

山家松　まつ風のあなるふ入る山の庵れうれよくうる
山家を松はむしの友るして到り風のうるて樹さ
松風のとをくをきうれうれこの事えぬるとあるふ
たつねをてうれとのうるはなもはるまれは松風をうく
松風のうれを友ふくこれふせうるくうれて以家に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田家

田家水

田家烟

草

蓼花淡山徑

竹色不改

竹窠多春

窻竹

松

松風

薄雪松風

窟松

茶松幸久

甫松

庭松

石頭松

松和春

松色多久
雜植物
鶴
嶋鶴
庭之鶴
鶴却遐年
鶴
関鶴
鷲山鶴
都鳥

いくちのう右ハ物の名ふるてはしことをとりしことをこゆ
さとるをとるみ右ハ中くふもちなくてあらばさくしん
をはかをしかなるあるるてるハ数ハちくもたくしちをい
身表つるそのうるうさ衣ささの毛にもかやさつしん
つるしうのちへしさ毛をもをハ波ら
りをしてはてるけるこふ海かうとうらのしてあるの毛衣
をのねをへ寿永海さをのぬさのうちハ老のゆうへと
ちへ波やはるるの関をかうるあくるるのうちう那
しとのうしねをに老と和神へ波とりしかうをはへつ
関をかるのやあのへうしへ是ハ伝のうを立かりやり
るのよハへつくはるん言ハたまはらく同るふつうとりしに
ちへしをや波のはるをうりはのはかなうし

鶴
夕鐘
雨後眺望
海眺望
海上眺望
山家眺望
鷲中眺望
海旦夕望
寄市雜
述懐

月ハはるる赤山の横り焼あるひうしハ入ハ
くれかるハ中人ゆくしつかるて春ゆ後の春うる
春ちりもるるをちるを月ハ浦やをハ波まのあちつ多やま
わやうと波のいくもハ波てクロにさる仲乃波りふ
かりのやはなるの波ちとうハ和のあるうを波ゆやをかれな
はしのをかるるかるハはハて波をを後あうう波
ねるくまわやうるんえをはかるハにをゆうりはをはと
波のとハ入りるちくゆるふ波ゆふ波ゆうちの波ふ
はのうふ波ゆとくて後りゆく市ハゆもハくくて
のるるきて後山波のかくうセハ仮とうを波の然ふやん
長とも安人かうハりるハくうのあるハるんふはとやををゆ
和歌浦に老てうるくはるねハ妃ををををはりをるるを

新拾遺雑部

人をうらみはてぬる秋の夕べかな　六十ぢとの浦波ぞ立ちまさりける

行末をうらなうらなうん五十のうれへやまりく老ぞ立ちまさりける

身ひとつの老てもなくなくはかなきかなしかられ

世離　行末を考へき老の涙ぞ袖の雨りくるる

ちとせをもうらなうらなうん老りをいかにうらなうらなうらな

徳蔵

寄太述懐
山家述懐
述懐依へ
老後述懐

述懐優
寄隠述懐
寄月述懐
寄情述懐
寄四述懐
うたゝあはせ

羇中述懐
寄神述懐
独述述懐
懐旧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏懷舊

獨懷流

寄夏懷舊　[illegible]

[illegible]

[illegible]

永禄三人往て入滅の後三年九月まで[illegible]
二人ともに宿り高り[illegible]
西のとの人達の双林寺に住行[illegible]
佛年行[illegible]二月十六日[illegible]
[illegible]
周翻西行と人身まで[illegible]
[illegible]
[illegible]
付行[illegible]
烟[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]比[illegible]
大[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けの[illegible]ることしひとかぬの[illegible]
人はかりとなりしもしかも
[illegible]
[illegible]月新たにかのやまとをさかん
きいれるにつつふをのそなへとなりて人のやさ
[illegible]
[illegible]
源光改[illegible]人ありてはなし光世なくてあたらしく
[illegible]
[illegible]
[illegible]人の源の[illegible]九月そこの日[illegible]
[illegible]

[illegible]
三京記王家新大[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

哀傷

無常

[illegible]

哀

神祇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

延文元年[illegible]

[illegible]

[illegible]

祝

[illegible]

近来国々名所の[illegible]

[illegible]

三宝院[illegible]

[illegible]

新古歌の中作られて後に[illegible]

[illegible]

寄道祝

[illegible]

寄浦祝

[illegible]

寄松祝

[illegible]

寄花祝

[illegible]

寄滝祝

[illegible]

寄神祝

[illegible]

寄神祇祝

[illegible]

釋教

釋教水

寄花釋教

大日

釋迦

菩薩

人界

聲聞

緣覺

色不異空空不異色　般若心經

不增不減

真實不虛

最勝王經護國王品

諸菩薩行狀及賓羅漢出微妙音聲如百千種樂器

時俱作　同法華經

今そ多松次郎のまたうそ拔ふとゆ手へありくハ
宮流とゆる
道ひく宮の池ふ漕ぶ牛つ傍ふうゆひろれ
普觀 觀經
あの男ひ牛ま清めゆりふまと蓋ひ蓋ひ蓋ふまと布ひわ
弓ひ院給ふ大ひ瓶蓋ふ蓋ふ大地ひと彌と交
ふとと三ふ山ふ山ふ山ふ
大ひ瓶ひ牛の經ふ山ひふ山ふ山ふ山ふ山ふ
無三惡道願 毛量寿經
ふ山ひ道路ひふ山ふ山ふ浦の石も少ふ大ひに漕ふ紛ふ
ふ山ふ山ふ山ふ泉のふ山ふ山ふ山ふ山ふ山ふ
弥陀ひ願のふを

法華經 ふ山ふ山ふ山ふ山

一切衆生悉有佛性
[illegible]
唯識論　非実体故如空花等
[illegible]
安楽集　唯有浄土一門可通入路
[illegible]
維摩神足観雖廣被物　性[illegible]
[illegible]
門し見佛後生浄土
[illegible]
身相神通楽
[illegible]

五如境界楽
凡菩[illegible]
南無の曼荼羅[illegible]
[illegible]
[illegible]
浄土[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]と[illegible]光と[illegible]も[illegible]れはるれ抹の[illegible]れ[illegible]
九月十三夜[illegible]名[illegible]佛[illegible]行[illegible]付[illegible]つ[illegible]と[illegible]
ア々家より
[illegible]
[illegible]
法[illegible]観音院ふ入さ[illegible]
と[illegible]
[illegible]
後[illegible]院門[illegible]
門流[illegible]
正道[illegible]

[illegible]
行[illegible]
[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]

伊勢より人の奇とゝせ侍りしを聞て

いせの海の底さ[illegible]清のなるもつゝ光るかるむとミるか

お関白ゐんより百首内奇えをゝれしつゝ

うゝしとゝふゝん海つゝせゝるゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

へさゝゝ伊ゝゝゝゝゝ[illegible]ゝ

伊勢の海の浦と題て[illegible]ゝ光るかるむやかゝゝん

世務ひゝゝゝゝゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

物揖巻頭のごとく彼疑変入道保氏抜書しかしよりわ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

比叡山の[illegible]雲かまうてゝ[illegible]

山人の[illegible]

若狭路西[illegible]山越[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜部

怪奇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふぬらへて　ちりそふ花も　さそひてを　まそらゝ武蔵に
うつりくる　みたいえふと　つむふぬも　風さそふ入る
帆とうけて　捨さんたちう　なかれても　波のちさとを
さゝるをと　三つのうゝも　秘波うる　きてたふ
ほうしの　めるみのりを　地中れ玉水　ゆるゝぬて
うゝすれ　ものらゝれ　たゝれのおれ　やひあゝ
花とりゝ　いゝゆかうる　きてひるゝ　ゝりの
おこゝとと　みさうて　絶ぬひうふ　へそうゝ
てゝされて　ゝけもゝ　除さいゝれを　たちうり
ゝりゝかて　むゝうゝ　行とうゝに　むゝさの
うゝゝへを　ゝかゝを　を入れ　糸竹乃
ゝちえて　うゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

さゝをゝれて　そそに浮よ　やとゝとこ　やうゝちゝも
ひゝけるゝハ　月のゝゝ　ゝんゝゝ　ゝハハゝゝへ
ほゝゝやなゝん

ゝゝゝよゝゝろな　なるくゝろゝゝ　ゝゝ二ゝ首と　ゝゝ
合ゝて　利をゝ　ゝとゝのゝゝり　ゝゝゝゝにゝゝ
ゝゝゝふゝくて　ゝゝしゝゝゝ

ゝゝ井ゝゝの　ゝるけゝ　ゝゝゝゝへ　ゝゝゝゝの　山のいくゝも
ゝゝゝゝに　こゝれゝゝ　ゝゝ月ゝ　つゝゝゝゝと
うゝくゝゝ　おやのゝ　ゝゝこゝり　ゝゝてゝの
ゝゝしゝゝ　いゝゝゝ　たゝゝゝ　ゝへゝゝ
やゝゝゝゝ　ハゝゝゝ　秋ゝゝの　ゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝつゝと　ゝゝのゝに

物名

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物名

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拆句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

施氏

訓諸

旋頭歌

拾遺集

述懷

六地蔵ふけ楽しく行ひ六月の歌

題文歌

雖諸

[illegible]

やまひおこりて後二月ばかりとなり

[illegible]

あらつきくみをはてくこそ夏秋の名残さくみをれ

あるよを秋はさらにとらふとてしらきぬふるとも

[illegible]

紅葉して朝の[illegible]

月をこそ　うたやかくるとこそ月にそやをしりて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕雁　枝や紙ふりくかたそらゆきはの夕べ雪うつむ礼
海鵜　さべくれぬくるれふるくるれわくるれ雪の白毛通
千鳥　なびさりのくうの宮ゐ代さて位と所しつ小
しのくるふしろ
くりの面ふうつめる秋の逆水立ハくくる老乃たくふ
なもも　契のくれわさうれ舟くくもにこうめてあくしもに
夏　ゆるいふくるあくくもとくくるとうらう紋
らくくのくくなくくく

詠百首和歌　　頓阿

春十又首

遠峰帰映霞

[illegible]

残雪交紫藤

[illegible]

春淡雪連花

[illegible]

折枝数点雪

[illegible]

清月上梅華

[illegible]

柳間黄鳥路

[illegible]

春来浪拍空

[illegible]

春深花開

[illegible]

花開和樹紅

[illegible]

花後風多

[illegible]

[illegible]

花落柳枝春

[illegible]

類聚抄　二ツ藤

[illegible]

歳時春秋

[illegible]

春雨夏中

雪の夕[illegible]

夏十首

涼谷夏雪

[illegible]

緑柳連村暗

山雲夏如雪

[illegible]

松風五月寒

[illegible]

風樹吟悼哭

[illegible]

秋聲草及荷

[illegible]

扁羅風生竹

[illegible]

泉聲到海蓋

秋十六

[illegible]山の[illegible]をひきて赤いきうりに変れ沙[illegible]

雨餘生[illegible]

[illegible]

夢入定[illegible]

[illegible]

秋十六首

為[illegible]

[illegible]

一雨洗殘暑

[illegible]

野色[illegible]

[illegible]

大方殿撰空

[illegible]

秋暑禁色

きく人の袖ハもろ[illegible]

猶花の須臾

[illegible]

江聲入秋音

[illegible]

月色一窓先

[illegible]

江清月近人

[illegible]

雞頭花　茅店月

[illegible]

山燒月　初上

[illegible]

雨向白　飯沉

[illegible]

遠山青入簾

[illegible]

風便數　花香

[illegible]

新家深　柳樹

[illegible]

冬十首

歳末　述懷

山人の[illegible]

[illegible]

人跡　板橋雪

[illegible]

破林　夜月

[illegible]

山泉水　欲冰

[illegible]

一鳥　巨壑水

[illegible]

[illegible]
清晨雪撥門
[illegible]
時雪為出林
[illegible]
獨釣寒江雪
[illegible]
流年川時度
[illegible]
志十前
心知人不知
[illegible]

唯有淚痕多
[illegible]
三年不見書
[illegible]
腸尺腸欲斷
[illegible]
入夏如何
[illegible]
花開交情
[illegible]
空國殺烟來
[illegible]

眼別鳥驚心
涼しさとうこの前後を又きのふ此方の俳
別後倉離期
はるばるとあの中の人まだ又ふつかとたつたる
何處文相逢
いつたんつきたるみわしの月日つりて行あ
旅十首
山路雲同没
りあの岩ひけりとくふ程もなくぬ岩ひ白
江邊問秋月
あまりて寄中して三行ほど人をうそぬ秋の夕
舟中秋夕

とりあつまる尾とれうの神ゝ秋ふるとや寄
揮入黄芦浦
わかり浦の小船にうれ笠のころかなこふ者やうら
蓑苔路山徑
ふるぬぬより日新ゝ見ぬ山木ぬ人ふるるこけの西後
御信寄加丁
ゝうたたるゝ俳よりうゝ侍ぬやとかとこのる
人沿秋花中
たれ人の旅立地も侍る此もふふ入むゝ一のゝう
路明殘月至
ゝつるゝうゝふゝ月侍て晩あるいうゝれやうたく
灘聲入蓑宅

閑居十首

遠居有餘樂
人間くらべわらはの栄ゆるこの世にはいとりやり
蓋日掩柴扉
今よりそてもとちかの世にまこうる栄ゆるて
秋月離宮見
文明もまこて月詠ぶのれ〳〵ふ
深居絶見非
ちはさとの世くふ中のとも偏すれ初ふ

山中無雷日
ちれはの音ふ月日とふ山の世〳〵ふ
多情人不見
宮ちれぬを山れちの多りてこけ式居ふ仕へ
殘生遠白鷗
老の波こうとしまりふたそうなるおもりれ
閑門尚野鹿
のへちうれ達ち門をとちやまん無ふ
臭五絃無事
今ハたくなんもれ老ものんれるふ色こ
竹徑無逸客
ちハやまそやうれたのふたん竹の栄ふの花乃れ

周居
誠二十

雜二十首

半山に夕陽
[illegible]
撞聲雲外殘
[illegible]
水鶏天盡頭
[illegible]
流水浸雲根
[illegible]
山光照海
[illegible]
船子浪高低
[illegible]

[illegible]
風林響寒葉
[illegible]
天色無情談
[illegible]
人間多苦人
[illegible]
世路山河險
[illegible]
清溪孤照影
[illegible]
松多常不見

行くえ知らずやちかうん雲ちかき山路おくゆかしう

遠嶂收殘雨

山門人語りあはれ未だ一村うるおひて山ろに

落日流波紅

吹きよせ吹きこむ風夕日紅くくて山の紅とろと

清風吹盡塵

まつ風の吹きはらひて遠かくてこの清らに落ち葉ちりそれ

裏鬚改胡鏡

たさ毎よろこる新たに生ず流るつとそなる義と今り

瀑迸來銀河

はさもりてあるとて実は里に松かかるる流のひきと

驚立解湯裏

丹ぬる流の清より夕日紅水に流るるとく

山田紅くゝ

禁を掘出されまを待人を忘れるるこの秋の夕風

僧洗悟色空

説法の花ひとつ波をもつて花とみてそそ

詠百首和歌

春二十首

秋河

澄中左春 神代のいとふ春にたてしてあかに春わきゆるん

山寒 うのはの汐烟の末乃いつくたそぬやほうきあるん

春雪 ふるゆそふとそ春やゝ春ふるゝ山田れ春の雪れ村さ

初雁 春行の美家流ゝ常やぬての新苗れ春ふゆるん

澤若菜
餘寒
梅薫風
沙路柳
春雨
春草
春月
歸雁
初花
見花
散花
惜花

所〳〵の雪消りやそこ〳〵に門田の畦にとられつむん
もの〳〵くる澤の白糸あすとへて春〳〵氷やとけふるん
吹風や梅の白れとさを並てかとちとへおさそひりくむ
あの〳〵のはしの彼方にあかなれたるくさ〳〵たれも柳のつく
のもの庭とはやもれもたりふもあるとふこ
清和〳〵雪つる水にうる生〳〵清しはこの〳〵乃まは
山桜乃雪や光とそ〳〵つんうれかて出るそ春月
こうる花はてもちの散なとうふかつけてもちのしうね
こてとまるはてこれか咲そむるとく花のもつへ咲れ
おくそ散無いるれこそふ別こ多くれむいんうと
一枝もおのかんは白ふうとを風そもとを法いあくも
ふるはの日おのいこ小法ふうねてちるへさもとふへい

落花
餞歌
惜春
暮春

風吹八枝の美は林泡かさもれ散はとつちるん
くれの色にさけるの吹のちくとふへそ〳〵そとへ
松ちえ小田の浦若ちれりえ人はてたくは春
張ともちもとなし春しかとれも惜ちはやはんはちれ日数と

夏十首

首夏
待郭公
聞郭公
早苗
深夏月
夏神
夏月

ふれのる春れ〳〵もはるとめて長ふとかる衆の横や
のりすと山ものもやれ〳〵春人ふつくる初春名尼
ふはよ〳〵ん〳〵ちてはる〳〵しもとふつくさん
林中はえ小川後若苗ふ人をさんへうる
〳〵のにいてもれ山の谷れと波の春中月はは乃は
立ゆり秋やきてそんきるれ〳〵りを咲物の〳〵長神
此月も光絶うく陸つものふ山ゆ〳〵ふ〳〵ふ〳〵

秋二十

氷恩寺　夕やみ小ぶねのうかれいでゝ家あるうち
夕立　吹とくる滝門寺　夕立のやみ越り出のつゝみ
六月扶　はなゝ木陰ゆけてたり秋風やさゝやかに川の蘇枝さ

秋二十首

年秋　五とせあれこゝとそ捨へけれ人ゝまれ花の秋の秋風
名所異　月新いとけて入れ七夕の逢せ急ぎ〻〻一夫
秋風　まへとし別路の秋の秋あり秋の夕風
萩露　ゆるとそもつゝそそ秋ふん高きて移ろはまてに秋の花むら
秋夕　夕されいふ秋夫婦〻〻住慣て身と行きかう秋風て吹
紅葉　秋身の秋路の恋に鳴ゝや夢を覚ふ紅もれてりん
秋田　うゝそゝ秋彼をよをて住吉の秋小田ふ秋風を吹
夜蛙　うゝの尾と泊つゝふるみや月よりふる池のなるん

曉虫　まゝりゆく花のねさめて蓼紅ゝ秋の新ふるゝかゝ
山月　湖畔の山ゝ出る月新やゝうゝるゝ月の波めゝん
湖月　久堅の月やゝ鳴海の月の秋の波ゝ月
野月　毎のゝ月ゝ月ゝ月ゝ秋月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
後月　山のゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
雁月　ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
閑雨　ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
関摘取　とゝ絶て八十氏人や歌毎に川波ゝ月て衣ゝゝん
変海島　ひゝゝの秋ふ秋山ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
社紅葉　秋ゝひゝ秋の上紅ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
川紅葉　ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
九月尽　夕西ゝ八月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ

冬二十

冬十首

如冬時雨　冬のしぐれ

寒竹　[illegible]

為紫　[illegible]

冬月　[illegible]

深雪　[illegible]

横雲　[illegible]

流水　[illegible]

[illegible]

深[illegible]

歳暮　[illegible]

恋二十首

寄月恋　[illegible]

、雲、　[illegible]

、雨、　[illegible]

、風、　[illegible]

、烟、　[illegible]

、霧、　[illegible]

、滝、　[illegible]

、原、　[illegible]

、橋、　[illegible]

、渡、　[illegible]

、水、　[illegible]

、[illegible]、　[illegible]

雜二十

、多、別段おもしろく行かぬ所の多き事なれども
、熟、とるべきよい事多く的をはずさぬ吹方と云べし
、情、俳諧にはあり方を解のむきよりくるよりおこれば
、恋、あらてすた地とかりくしロたんの所とあらうてむいえた
、源、とり汐なるの源れ俳やすーと云に〜そくつーん
、松、まれ〜打花の立所とかうつて源の所やはとうーん
、衣、蓑おまきあ〜ぬ打れるにや衣をてれた　松ろーん
、弓、いつう成あり木打すあ外りてふつうもの花と云也

雜二十首

燒鶏　いかるがぬさあ時ちも焼のうけ打れ外のきたるりと
夜燈　枝間ちの家もわそに物てはぬる落ちを恋のうれ
岸松　あるよ八考盤れ公のふれ松ちるとうるむて候は

里竹　ふるはしの水路の竹のしあるふるあ人のしるやとは
隠巖　海辺の浜ふれ黒れるふ蔵るの海のちるふ
岩敷　あるなる深代あ小藤田ふ海は海るの浜
苔敷　松まを見れ小形茶家やは茶の人の種ふ
江草　かおえの海ふ所れ小人や言れて
浦永　ふ拾て万とあてけ〜ちんとこ〜こ
松小　いつとふふれ伝茶の外とて行ふ〜ふ〜ん
家芸　松ふを絵ふ絵ん松ふ〜むふ岸の三け衣と
ふ家永　ふ浜の芸ふトふふ松ふのふけをむふ
ふ家岸　あ〜吹岸の作茶ふ〜あ〜ふ〜の作〜ル
四家雨　帝茶ふくあるとふ作ふて種ふ〜ん
旅行　ふふふ茶ふ人のふ浜ふふて〜ふ海ふ〜ふ

後宮　起別いくしまの宮おなじ所にてうほうきう行
後伯　わらはそう毋をとりぬとうはいくくしまの浦にて流むん
海路を　いよのはやいくしの浦と云うもれを毋の浦に多江
寄社祝　又十川ちさ流のこうりう江で神や久しく住ちめけむ
、日、　くまりうつれとてうせ給ひ日よりはかりるまでいる

潯湘夜雨　船よりもろ人の後れあるも為ちるる夏の中う郎
心市の背　松々人の引きとるかゆうてふるあしにさハく音人
漁村夕照　まぶ為夕れ波に舟うかうて家とすくふ子らとの
遠寺吹鐘　こねうつゆとやのんうれかちそて残の海をうかをとる

新後拾遺雜下

文ともの名ハ一ハ仏ちやにくる手ほりそて

頻阿

新後拾遺春上

ちらてやうこれの世ハいつ江ちそ手ふ
春　寺月るにはやちりて夜れ門ハ人ちうたてけ山の花
秋　こちきかて秋ちの行て秋夜のちふ孔ちて世ふまちなり

卷二

一三

一一

一五

離別

鞠衣

[illegible]

迫滿殿御書

竊視此集之編可謂和奇之規範顯遠於萬象之中無風能之送美也實不朝夕立義乎不足嗟嘆勤吟情性而已

[illegible]

右草養集奥書

浪華書肆

岩[illegible]清[illegible]
加藤清太郎
菊城長壽
松邨九兵衛